

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標 (抜粋)

園評価の方法について

各園、令和4年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、(1)令和3年度 当園の成果と問題点、(2)令和4年度/(3)令和5年度 当園としての努力していきたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
令和3年度の成果・反省・改善目標	<p>昨年より自発的に体験や活動ができる環境整備ということで、園児が自発的に遊び込める体験の『わくわくの日』を継続した。継続することでやってみたい遊びを見つけ楽しむ姿が見られるようになった。異年齢の園児と取り組むことで刺激を受け、真似たり一つの遊びをじっくりと遊んだりするようになった。しかし園児に対しての関わり方や接し方などの人的環境が重要な場面になっても対応しきれないこともあり、人的環境の大切さを感じた。今後環境構成を重要視し取り組んでいきたい。</p>	<p>乳幼児期の主体性とは何か、どのようにすれば育めるのか、年齢別に環境や援助の在り方の研究と実践に取り組んだ。乳幼児の主体性に対して一貫性のある関わりや環境構成となるよう、保育教諭等の連携(コミュニケーション)を図ることを心掛けたが不十分なところもあり課題となった。また「開かれた園づくり」はコロナ禍による制限がありつつも、ここ数年で深めてこられた。ある程度園としては達成できていると評価できた。</p>	<p>園目標を更に17項目にし、全職員に配布して各クラスにも掲示することで、日々意識できるようにした。フリーデールの取り組みにより、自由保育について見直す機会となったが、テーマを設定し、それにとられるあまり事前準備を整え過ぎたことで、園児の主体性を十分に引き出すまでには至らなかった。職員の意識や学ぶ姿勢など、資質向上にはつながった。反省や意見として「テーマを決めない」「クラスごとに行う」「他クラスの活動にも目を向けアイデアを吸収する」等があがった。また保育教諭等がいかに関わっていくかなど新たな課題も見えてきた。</p>	<p>・未満児は、興味や関心ももてる絵本を選び、問い掛けに応じたり繰り返しのある言葉を真似したりして発語につながったように思う。 以上児は、合同礼拝等を継続していったことで落ち着いて話を聞いたり、思ったことや考えたことを自分なりの言葉で発現したりする姿が多く見られるようになってきた。 ・本年度もオンライン研修を受けて職員の資質向上に繋がったと思う。 ・ウイズデーは異年齢交流の実施が難しいときもあったが、密にならないよう工夫して継続できた。新たな試みとして、ペアづくりをしたことで思いやりや優しさが育まれたように思う。</p>
令和4年度 園目標 についての評価	<p>以上児は遊び方にも慣れ自分の好きな遊びをじっくりと遊び込む姿があり、遊び方を自分で考え工夫する姿が見られるようになった。 未満児は興味のある遊びを取り入れていったが、遊びを提供する形になってしまふことが多く、自主的に遊び込める環境作りの難しさを感じた。園児のしぐさや行動を見逃さず、受け止めながら言葉掛けをし、園児が遊びを見つけて遊び込めるような環境作り(人的・物的)を心掛けていきたい。</p>	<p>園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育をテーマに取り組んだ。園児の主体性については、年齢別のテーマを掲げ、保育を展開する中で、一貫性のある関わりや環境構成を深められるよう努めた。保育者の主体性についても場面によっては、全保育者が全園児に関わる積極的な姿があるが、一貫性のある関わりまでとはいかなかった。もっとクラスの枠を超えお互いにもう一步踏み込んでいく必要を感じ、園児だけでなく保育者同士の風通しもよくして、園全体での交流を深めていきたい。</p>	<p>園目標をさらに19項目にして継続することで職員の意識向上につながった。 「アクティブラーニング」の継続により、園児が伸び伸びと活動する場面やイメージを広げ表現していく姿などが増えてきた。今後はさらに遊びの創造性、展開性、連続性を楽しめるよう、またそこにSIの関わりを意識しながら、より層「遊びの活用」が広がっていくよう、人的・物的環境構成の在り方を考えていきたい。 基本的なことの継続や協力体制はできたが、一歩前進の心掛けや視野を広げることには個人差が大きかった。今後もクラス王国になることなく、互いの思いに寄り添いながら、園が一体となって前進を目指していきたい。</p>	<p>カメさんタイムやボカボカタイム、仏教童話などを通して、仏さまの話聞く機会をもった。 保育教諭等自身が積極的に気持ちのよい挨拶を意識することで、園児が進んで挨拶をする姿が増えた。個人差があるが無理にさせようとするのではなく、園児自ら挨拶をしようとする姿や気持ちを見逃さず、容認的に接していきたい。 各クラスの玩具・用具置き場の環境を見直したことで、園児が自由に好きな玩具を手に取り、主体的に遊びを展開する姿が見られるようになってきた。 友達や異年齢児と遊びを共有できる環境づくりへと発展させると同時に、園児の主体性を育む人的環境の在り方についても保育者間で確認し合い実践していきたい。</p>
令和5年度 園目標	<p>「園児の思いに寄り添った保育をめざして」 ～園児の声を聴き、安心できる環境の中で思いやりや豊かなところを育む～ ・自己肯定感を支え、自主性・自発性・意欲をもたせるために意識した環境構成(人的・物的)を考え、保育する。 ・『わくわくの日』自発的に遊びを見つけ、じっくりと遊び込む活動 ・『えがおの日』異年齢園児交流。わらべうた遊び・運動遊び・感覚遊び</p>	<p>園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育を考えよう～やってみよう！が溢れ出す今町保育園～ ・自分で見つける、自分で決める(園児を信頼し、ぎりぎりまで見守る保育) ・年齢発達に合った保育計画と、連続性のある保育実践 ・提案力・聞思力のある保育者(どうしたらいいですか？→こう考えましたが、どうですか？) ・一貫性の関わりのある保育の実践 日常保育におけるクラス・年齢の垣根を超えた交流…【あそんでみ隊】</p>	<p>「たくさん遊んで、たくさん話そう！」 ～遊びの効用とSI的関わり～ ・天竜保育園の取り組み(14項目)を常に意識して実践する。 ・フリーデールに限らず、保育全体が「主体的・対話的・深い学び」の活動となるよう今年度は特に「対話」を意識し、園児同士、保育教諭等と園児、保育教諭等同士など、温かい対話を交わしながら、それぞれの園生活が深い学びへとつながっていきけるよう取り組む。 ・行事や活動など、コロナ禍以前の取り組みを再度見直し、基本に沿いながらも新たな視点で実践する。 ・不適切保育について、全職員で定期的な振り返りや確認を行う。</p>	<p>豊かな環境の中で、いのち、こころ、生きる力を育む ～園児の主体性を重視した保育について考える～ ・園児の主体性とは何か(保育教諭等間の共通理解と共有) ・園児がやらされるのではなく、自主的に生活できるような関わりと言葉掛け(人的環境) ・園児が与えられるのではなく、主体的に遊び込めるようなコーナー遊びの充実(物的環境) ・園児主体の保育だったか振り返る(PDCA)</p>